第 42 号　　令和 7 年 7 月

林陽寺報　さくら

岐阜市岩田西 3-402　林陽寺　058-243-1380

ホームページ

お盆。戦後 80 年、戦病没者の皆様に懇ろなる誠を！

早いもので、お盆の季節になりました。家族揃ってご先祖様に手を合わせ、懇ろに勤めましょう。

特に今年は戦後八十年、悲惨な戦争が再び起きないよう。今日の平和が永久に続きますよう祈念し、英霊に感謝の誠を捧げ、ご先祖様に感謝してお盆を過ごしましょう。

当寺におきましても、八月七日のお盆の法要（施食会）に始まり、二十四日の地蔵盆までいろいろな行事を勤めます。

どうぞお詣りください。

お盆飾りの一例

戦後八十年

台湾バシー海峡での戦没者慰霊を終えて

今年は終戦後八十年各地で周年事業が行われています。天皇陛下も硫黄島を始め沖縄、後に広島、長崎などへの「慰霊の旅」を続けられるとのことです。

曹洞宗岐阜県總和会では、この二月に慰霊の旅を台湾最南端バシー海峡を望む丘の上に建てられた慰霊の寺院「潮音寺」で行いました。以前にも慰霊に哀悼の誠を捧げる法要を白骨街道の名で知られるインパール作戦が行われた「ミャンマー（ビルマ）」でも行いました。どちらも慰霊の墓や施設は現地の方が大切にお守りされています。頭の下がる思いがいたします。

潮音寺は高雄から高速道路、一般道をひたすら三時間ほど南下、台湾最南端の屏東県恒春鎮猫鼻頭（マオビートウ）にあります。以前大学に勤務していた頃、台南や高雄まで留学生の募集に行き、留学生が数名入学。その中に屏東県出身の学生がいて屏東（ペイトウ）とか鵝鑾鼻（ガランピ）の地名はよく聞かされました。周りは田んぼばかりですよとの事あったが、今では国家公園として整備され人気のリゾート地となっています。

▶潮音寺

潮音寺は、昭和十九年八月にバシー海峡付近にて、玉津丸が撃沈された後、十二日もの間漂流し、まさに九死に一生を得た故中嶋秀次氏（平成二十五年十月、九十二歳で死去）が昭和五十六年にその半生と私財を投じ、この海峡で戦死した戦友たちのために建立した台湾最南端の猫鼻頭にあるお寺です。

バシー海峡は、台湾最南端鑾鼻岬からフィリピンのルソン島との間にある海峡を指します。大東亜

戦争末期、南方に向かって航海中の船舶が、米軍の潜水艦による魚雷によって撃沈され、「魔の海峡・輸送船の墓場」と恐れられました。この海峡で少なくとも十万、最大で二十六万とも言われる多くの犠牲者が眠っていると言われています。

このバシー海峡は現在の日本にとっても大変重要な航海路です。東南アジアや中東からの食糧、エネルギー資源はこの海峡を通って日本に運ばれてきます。地政学的重要性は八十年を経た今でも変わっていません。

潮音寺管理委員会　委員長　鐘佐榮女史は「この惨事を日本の皆さんに一人でも多く知って頂き、バシー海峡戦没者の唯一の追悼施設であるここ潮音寺まで足を運んでいただき多くの戦没者の慰霊を行っていただきたいと思います。」と語っておられます。

我々が、潮音寺に到着すると、白亜の二階建ての建物が迎えてくれました。一階には「お地蔵様」や「バシー海峡方面戦没者之霊」の位牌が入ったお厨子が二階には「阿弥陀様」が祀られています。

当時曹洞宗関係者が尽力された関係から落慶式（昭和五十六年八月）の導師には永平寺の副貫首であった丹羽廉芳禅師が勤められ、法要に参加した台湾の僧侶と共に鎮魂の読経が響いたと記されています。

我々は一階でまず拝登諷経を二階の本堂で戦没殉難者供養諷経を読誦し参加者に焼香していただき英霊に哀悼の誠を捧げました。

戦後八十年、私も戦争を知らない世代ですが毎年八月のお盆の行事「施食会」にて、「戦没病没者霊位」の為に一座を設け、参列者の皆様方にお焼香をしていただいております。今日の平和が永久に続きますよう祈念してやみません。

最後に、門田隆将氏「バシー海峡」を扱った労作「慟哭の海峡」を紹介させていただき多くの方々に悲惨な現実を忘れることなく後世に伝えていただきたいと思います。

『慟哭の海峡』角川文庫

【内容紹介】ネットより

平成二十五年十月、二人の老人が死んだ。

一人は大正八年生まれの九十四歳、もう一人はふたつ下の九十二歳だった。二人は互いに会ったこともなければ、お互いを意識したこともない。まったく別々の人生を歩み、まったく知らないままに同じ時期に亡くなった。

太平洋戦争（大東亜戦争）時、〝輸送船の墓場〟と称され、十万を超える日本兵が犠牲になったとされる「バシー海峡」。二人に共通するのは、この台湾とフィリピンの間にあるバシー海峡に「強い思いを持っていたこと」だけである。一人は、バシー海峡で弟を喪ったアンパンマンの作者、やなせたかし。もう一人は、炎熱のバシー海峡を十二日間も漂流して、奇跡の生還を遂げた中嶋秀次である。

やなせ氏は、心の奥底に哀しみ

と寂しさを抱えながら、晩年に「アンパンマン」という、子供たちに勇気と希望を与え続けるヒーローを生み出した。一方、中嶋氏は、死んだ戦友の鎮魂のために戦後の人生を捧げ、長い歳月の末に、バシー海峡が見渡せる丘に「潮音寺」という寺院を建立する。

膨大な数の若者が戦争の最前線に立ち、そして死んでいった。二人が生きた若き日々は、「生きること」自体を拒まれ、多くの同世代の人間が無念の思いを呑み込んで死んでいった時代だった。

異国の土となり、蒼い海原の底に沈んでいった大正生まれの男たちは、実に二百万人にものぼる。隣り合わせの「生」と「死」の狭間で揺れ、最後まで自己犠牲を貫いた若者たち。「アンパンマン」に込められた想いと、彼らが「生きた時代」とはどのようなものだったのか。〝世紀のヒーロー〟アンパンマンとは、いったい「誰」なのですかー？

今、明かされる、「慟哭の海峡」をめぐる真実の物語。

「仏前結婚式に寄せて」

ご挨拶

峰　雪

風香る皐月。晴天に恵まれた令和七年五月五日、林陽寺に於いて、式師に永昌院東堂高橋定申老師を拝請し、結婚式を挙げさせていただきました。

年が明けてから五月の結婚式までは家族と共に準備に走り続けました。昔は自宅で行うことが当たり前だったこうした儀式は、今や会館が主流となりました。しかし、挙げるならば生まれ育ったお寺でやりたいと心に決めていました。

住職は仏前結婚式の大枠を作り、母は披露宴を担当。司会、受付、裏方、余興までご縁のある方、親類縁者一同の力を借りて、すべてが手づくりの結婚式であり披露宴でした。

お披露目の時には、郡上の風土唄である祝い唄「伊勢音頭」を友人達が駆けつけてくれて唄ってくれました。この日は、奇しくもこれまでに何度かお寺で郡上唄を唄ってくださった唄い手名手の後藤さんの命日でもあり、唄い手の気持ちが伝わってきて、思わず涙がポロポロ流れ、心が震え、感動しました。

式の日の朝、ご先祖様のお墓参りをしたら、珍しく本堂の屋根に一羽の小さな鳥が歩いていました。彼が、「おばあちゃんだね」と。亡くなる最後まで、お寺のことを気にかけていた祖母。風が爽やかで、空には青空が広がり、特別な空気を纏っていたあの日の境内はとても穏やかで、平和で愛が溢れていました。

数えきれないほどのご縁のある方に見守られ、支えていただき、この日を迎えられることができた事、心から感謝申し上げます。今を見つめて、一瞬一瞬の時の重なりを大事に、私たちの人生の冒険の旅を始めていきます。

未熟な私たちですが、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

婚礼に花を生ける

央　仁

（創蒼軒）

この度、峰雪さんの夫となりました央仁（なかひと）です。どうぞ宜しくお願いいたします。

五月五日の結婚式・披露宴の際、本堂東の床の間に生けた花について、お話させていただきます。

松樹千年の翠と言われ繁栄を司るマツを右に、強健・持続を表すサンシュユを左に、宝珠の形と成るよう、向かい合わせに屈曲した形で生けました。主となる枝を頂点とし、外斜め前方、正面下方に役枝を配し立体感を作りました。

この生け方は相生（あいおい）と呼ばれ、同根より幹が二本生ずる事と、夫婦共に長生きする事を掛けた縁起物とされています。

日本生花司松月堂古流は、天地人の考え方を元に整備された単純な三線構造をとる生花（せいか）を基軸とします。特に木の美しさを表現するその基本に倣いつつ、今回は堅さを和らげた生け方をしました。

お庫裡のつぶやき

「恩送り」

仏前結婚式と披露宴をお檀家様を始めとする関係者の皆様のおかげをもちまして、無事終える事ができました。有り難うございました。終わってみて、五十年前の私どもの結婚式を思い出しました。実家にて花嫁姿になり寺に来て、ただ座っていればよかった私。今回その日までに義父母がどれだけの準備をして当日を迎えていたかに恥ずかしいことに初めて思い、いたりました。

掃除から始まり、当時は、仕出しもなく全てお檀家の調理人の方が作ってくださいました。義父母には、その為の器の準備や当日の仕切り、現在以上の苦労が多々あったと思われます。何と愚かであったかと、改めてその恩を感じたことです。

「恩送り」という言葉があります。受けた恩をその人に返すのではなく、他の誰かに恩を送るという考え方です。お義父さんお義母さんに多くのご恩を受けて、私は受けたご恩の一つでも送れたでしょうか。

そんなことを、最近考えている私です。

しだれ桜まつり　岐阜・岩田西の林陽寺

岐阜市岩田西の林陽寺で3月23日、「しだれ桜まつり」が開かれ、多くの人でにぎわった。

林陽寺のシダレザクラは、幹周り2.19m、樹高15mで樹齢は約200年といわれ、1998年に市保存樹に指定された。この日は「三分咲き」状態。

今回は「寺カフェ」と題し、本堂前でのコンサートと駐車場でのマルシェ。各務原市在住の歌手・木歌さんと、同市出身でオーストラリア在住のアーティストYAOさんが、ライブペインティングで共演した。マルシェでは岐阜や郡上市、池田、白川町のコーヒーやカレー、焼き菓子などの販売ブースが出店。汗ばむような陽気の中、家族連れらの長い行列が出来ていた。

法話をお聞き下さい

『言葉には人の心をやさしくさせる力がある』

24時間送り続けています（3分程度です）

「テレホン法話」

★曹洞宗岐阜県宗務所

0575－46－7881

（フリーダイヤルではありません）

★曹洞宗東海管区教化センター

0120－560－511